

テーマ

## 『守ろう地域の宝 育てよう故郷を愛する子どもたち』

目標

- ・ 史跡や文化遺産など、自分達の住む街を理解する活動を推進する。
- ・ 地域・家庭・学校が連携して、地域を大切に作る心豊かな子どもの育成をする。

## 今年度の取組紹介

## 《広報紙「京チユン通信」の発行》

本協議会及び各校園の活動・取組を京西中学校区の住民の方に広く認知していただく為に、広報紙「京チユン通信」を作成し、自治会の協力を得て校区内全戸(約 7,800 戸)へ配布しました。

## 《史跡散策&amp;清掃作業》

「育てよう故郷を愛する子どもたちに」のテーマに基づき、史跡掲載校区マップをもとに校区内の寺社を散策するとともにゴミ拾い等の清掃活動を昨年に引き続き実施しました。

第 5 回 (6 月): 薬師寺、七条天満神社、西波天神社で実施し、中学生の参加も多く大人子ども合わせて 165 名が参加しました。

第 6 回(11 月): 三松禅寺、天武神社、大池で実施し、85 名が参加。

薬師寺では村上定運僧侶より講話をいただきました。

三松禅寺では座禅の体験をしました。七条天満神社、大池では市の文化財課の山口さんより説明をしていただきました。

## 《各校園の教育活動の支援》

環境美化活動、学習活動の支援(調理実習・職場体験・福祉体験)、図書館運営、放課後学習等各校園が必要とする支援を行いました。



## 今年度のまとめ

「史跡散策&清掃活動」が少しずつ地域に浸透し、全体としては参加者も増えました。中学生の参加しやすい日程になった 6 月は中学生の参加も多かったですが、11 月は期末試験の時期になり中学生の参加がほとんどありませんでした。各校園の行事予定を考慮した日程調整が課題です。

各校園の支援として、特に今年度は、図書館司書の指導を得て図書館ボランティアが充実しました。

年 2 回発行した広報紙「京チユン通信」と京西中ホームページ「地域連携」により協議会の活動内容の様子を発信できました。

## 来年度に向けて

ボランティアの輪を広げ、学校支援を前提とした子どもたちへの関わりを一層充実していきます。具体的には、各校園の年間活動予定をまとめ、活動支援カレンダーを配信することで、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面で必要な支援活動を組織します。

「史跡散策&清掃活動」を第 7 回、第 8 回と実施し、歴史ある地域を大人も子どもも一緒に学ぶと共にわが街を美しくします。

テーマ

## 『クリーン&amp;グリーン大作戦』

目標

学校をみどりに 心を豊かに 挨拶が響き合う学校に

- ・校内の美化及び緑化に努めると共に、きれいな心を育てる。
- ・豊かな人間性を育てるため、地域の方々から生き方を学ぶ
- ・「挨拶が響き合う学校」から「挨拶が響き合う校区」を目指す

## 今年度の取組紹介

豊かな心を育て、共に支え合いお互いを大切にできる生徒を育てるため、なかまから学ぶことはもちろんのこと、地域の方々とさまざまな場面で交流を深め、生き方をはじめ、多くのことを学ぶ取組を行いました。

## ○花いっぱい事業 プロジェクト「ひまわり」「チューリップ」

「ひまわり」は、保護者らボランティアの協力で 2,000 株の種植えを行ない、校内への定植はもちろん、校区の東養護学校・小学校・幼稚園・保育園や地域の福祉移設等へ苗を配布しました。

## ○学習支援活動 福祉体験学習支援 京中学習の日

車いす体験(1年)や高齢者疑似体験学習(3年)などに、地域の方々に疑似体験装具の着脱や車いす走行危険個所の見守り・補助等の支援を得た。また、京中学習の日を 2 学期から設定し、基礎学力の定着を目指し教員及びボランティアで放課後学習会を実施しました。

## ○第 8 回京中オープンスクール

「学ぼう地域の方々から・考えよう生き方」をテーマに地域の方々を中心にゲストティーチャーを招き、27 講座を開講した。

また、午後の生き方講演では、人権落語の桂七福さんに「気がつけば高まる人権意識 ～落語の中に笑いと学び～」と題して熱く語っていただき、人権について考えました。



## 今年度のまとめ

地域コーディネーターや保護者、ボランティアの協力を得て校内環境整備・美化、学習支援、図書館運営支援、第 8 回オープンスクール等を実施出来た。生徒にとって地域の方々とさまざまな場面で交流を深め、生き方をはじめ、多くのことを学ぶことができました。また、心から挨拶できる生徒も増えました。

## 来年度に向けて

運営委員会と校内の地域連携委員会を活性させ、委員会を中心にプロジェクトひまわりや京中オープンスクール等の取組の企画運営をします。

図書整備を含む図書館運営を図書ボランティアへ委譲していく。

放課後学習の「京中学習の日」を定期的に毎月実施し、学習支援ボランティアを充実して、取組みを定着させます。

テーマ

**「命生き生き、地域で生き活き」**

目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、  
子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実。

## 今年度の取組紹介

- ・図書ボランティアさんの笑顔いっぱい、元気な活動は健在で、今年から配属された図書館司書の先生と連携を密に取りながら子どもたちへ、本との出会いの素晴らしさを伝えてくださいました。また、委員会活動にもかかわってくださり、本の管理の仕方も教えていただきました。そして何より、図書室の環境が美しくなり、本に親しみを持てるようになりました。
- ・昔のくらし（七輪）体験では、毎日見守り活動をしてくださっている地域の万年青年クラブや自主防災防犯会の皆さんが、にこにこサポートをしていただきました。火を使う場面も、できるだけ子どもたち自身で挑戦させてくださり、自信と喜びを与えるような配慮もいただきました。
- ・2年目の「家庭科実習サポートボランティア」では、児童のおばあ様にあたる方も参加されました。実は、以前にミシン会社に勤められたいたことを活かし、故障した5台のミシンを無償で直してくださいました。子どもたちも、教職員も大喜びでした。



## 今年度のまとめ

- ・前年度より、ボランティアさんのかかわる機会が増えました。（児童のおばあさんが、家庭科実習サポートに参加してくださいました。）
- ・児童の「豊かな読書活動」が活発化しました。（朝の読書タイムが、より静かになりました。）
- ・ボランティアさんの図書室前の「掲示板」装飾に立ち止まる児童が増えました。
- ・地域の方と、より親しい挨拶を児童ができてきました。（昔のくらし体験のボランティアさんに、「朝の登校の時のおじちゃんや。」と呼びかけられ、呼びかけられた方も、笑顔で嬉しく対応してくださいました。）

## 来年度に向けて（課題・改善点）

- ・年度当初より計画したものの、急に変更しなければならない場合も出てくると思いますので、もっと早くに対応できる体制作りをしていきたいです。特に「命の教育」にかかわる講演は、途切れず続けていきたいです。

テーマ

**かしこく なかよく たくましく**

目標

**伏見南で学んだことを誇れる子の育成～見つけよう 今の自分 未来の自分**

## 今年度の取組紹介

伏見南で学んだことを誇れる子の育成のために、自ら進んで地域を知り地域のすばらしさを学習することが大切であると考えました。

今年度も地域の方をゲストティチャーとして招き、学年ごとに地域学習を行いました。4年生の「平城京探検隊」では、当時の貴族の食事を『天平の宴』として再現した奈良パークホテル料理長から実際の献立の食品サンプルをもとにめずらしい調味料など紹介していただきました。このように地域とともにキャリア教育を進め、生きる力を育むように取り組みました。

「伝え合い学び合う授業作り」の取組を地域の方と共に進めました。

「考える力・表現する力」を育成する授業の創造に取り組み、その成果を奈良県算数数学教育研究会の会場校として、公開授業・研究討議等で発信しました。

「豊かな心・人間関係力の育成」の取組として、特別支援学級で「ひまわりレストラン」を開きました。確かな勤労観を身につけることを目標に責任をもって調理や接客を担当し、お客のもてなし方を学習しました。地域の方から励ましの感想をいただきました。



『天平の宴』献立説明



公開授業・中学年の部



ひまわりレストラン

## 今年度のまとめ

『図書室でかしこく・地域連携学習事業』では、地域の方と共に図書室活用型学習を展開することができました。地域の方と共に『干し柿作り』・『花いっぱい運動』・『球技大会』など体験的な活動を通して、子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。「豊かな心・人間関係力の育成」を目指し、地域の方と共にキャリア教育の視点から様々な学習場面で体験的な活動を展開しました。児童健全育成推進協議会（愛称：なかよし会）やPTAOB会・万年青年クラブのみなさんの協力を得て、登下校の安全見守り活動を推進することができました。

## 来年度に向けて

中学校区で目指す子ども像『自らのまちに誇りをもって、自らのまちのことを語れる子ども』を実現するために、学習面では「学習習慣を身につけ、自ら学び考えようとする子」「自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現できる子」、生活面では「心のこもった挨拶ができる子」「相手を思いやり、コミュニケーションがとれる子」を目指し、「豊かな心・人間関係力の育成」に取り組んでいきます。

テーマ

**自ら考え、最後までやりぬく子ども**

目標

**感動体験を味わったり、人と人のつながりの大切さを感じたりしながら意欲的に取り組む。**

## 今年度の取組紹介

数年間、取り組んでいる菜の花プロジェクトと共に、地域の方の教育力や知識力を活かした運動遊び・絵本の読み聞かせ・楽しみ会等がありました。園だよりやクラスだより等で園の様子や子どもの実態を知っていただき園教育を理解して協働事業となりました。

月1回の絵本の読み聞かせでは、子どもの実態に即した絵本や季節に応じた絵本を選択して持参されていて、子どもたちも楽しみにして「今日は、どんな絵本を読むの」「もっと読んでほしい」と自らの思いを伝えたり、絵本の貸出日に地域の方が読まれた絵本を探し借りたりしていました。この機会を通して、豊かな想像力と自分で考え実現させようとする気持ちが高まりました。

また、縄やフープ等を使った運動遊びでは、子どもたちが考えた動きや遊びを見て、「すごいね。よく考えたね」と言葉で認めてもらえたことで喜びを感じていました。子どもたちからも「こんなのができたから見て」「次は、こんなこともできるようになったよ」と自ら話しかけて、次への意欲となり楽しんで最後までやりぬこうとする姿も見られるようになりました。



## 今年度のまとめ

地域の方の個々の教育力・知識力を活かした絵本の読み聞かせや運動遊び等の事業は、「また、一緒に遊ぼうね」「また来てね」と子どもたちから話しかけ、「おもしろそう、やってみよう、できた」という思いが持てる感動体験となっていました。

他者から自分の言動を認めもらう喜び、わくわくするような絵本を視聴する楽しさ、困った時に声をかけてもらう嬉しさ等の感情体験も生まれました。「六条幼稚園に来てよかった」「おばちゃんやおじちゃん（地域の方）と、お話ができてよかった」という思いが、地域に愛着を持つようになると思いました。園評価アンケートでは、保護者の方も「他ではできない事業なのでよかった」「地域の人に感謝」という意見が100%で、引き続き実施してほしいという意見がありました。

また、地域の方からも子どもの笑顔を見て会話することは楽しくて「また、幼稚園に来たいと言う思いになる」「〇〇ちゃんの成長している姿がうれしい」とお話をいただきました。

## 来年度に向けて

年間計画の位置づけをしっかりと行い、子どもの実態や園教育目標に即した事業の取組が大切であると考え、地域の方や関係機関との連携を積み重ね、細かな打ち合せと情報交換をしていながら深みのある事業にしていきたいと思えます。

テーマ

**いきいき輝け！笑顔いっぱい！伏見南っ子**

目標

**いろいろな人や身近なものとのかかわりを通して、  
心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる****今年度の取組紹介**

核家族がほとんどで、幼児は入園するまで家庭内で過ごすことが多く経験が乏しい。また、人とかかわりが消極的で、自分の思いをうまく伝えられない子どもの姿がある。そこで、地域の方や身近な人との温かなかかわりを通し、思いやりの気持ちや人とつながる喜びを味わうことを積み重ね、いきいきと活動できるよう計画を立て実施してきました。

本年度は、民生委員さんや地域コーディネーターと連携を取りながら、様々な感動体験ができるように計画・実践をしてきました。

今年度より、衛生面を考慮して「もちつき交流会」の代わりに、「おにぎりパーティー」を計画し、民生委員さんの協力のもと行いました。もち米や奈良の古代米である赤米を使用し、釜で炊く様子や蒸し器で蒸す様子を見たり、お米の匂いを感じたりしました。「赤米はプチプチしておいしいよ。」と、民生委員さんから教えてもらったり、おにぎり作りを一緒にしたりしました。お味噌汁も作っていただき「あったかい。」「おいしい。」と、一緒に食べている民生委員さんに「ありがとうございます。」と、感謝の気持ちを伝える姿が見られました。



地域コーディネーターの協力を得て、園内の環境整備花植えを行いました。4歳児5歳児共に、「どの花を植えたい？」「みんなが5歳児さんになったら、きれいなチューリップが咲くよ。楽しみだね。」など、心温まる声に、子ども達も楽しみにしながら植える姿がみられました。その後、「芽が出てきた。」と、自分たちの植えた花や球根の世話をするなかで、成長を楽しみにしている様子があります。

また、卒園壁画でもお力をお借りして、5歳児全員で絵をかきました。「その洋服すてき。」「かわいい目がかけたね。」など、子ども達が自信をもって取り組めるように言葉をかけてくださいました。「みんなですてきな絵がかけた。」と、子ども達も満足感を味わうことができました。

**今年度のまとめ**

子ども達は、日々身近な人達とふれあう中で、親しみを感じ安心感がもてるようになりました。また、様々な体験が心弾む時間となり、豊かな経験へとつながりました。地域の方、保護者の方の協力を得ながら、様々な感動体験を積み重ねてきたことは、今後の心の基盤になっていくのではないかと思います。

**来年度に向けて**

園児が、身近な人とかかわり、豊かな経験を積み重ねていけるように、地域コーディネーターや地域の方と連携して計画し、保育内容の充実に向けて取り組んでいきたいと思ひます。